

先日、クレヨンや色鉛筆から「肌色」が消えたという記事を目にしました。もちろん、あの色が消えたわけではなく、今は「うすだいいい」などと言い換えられています。多様な人種が暮らす時代において、あの色を肌色と呼ぶのは差別的だという意見が20年前ごろから寄せられるようになり、筆記用具メーカーは「肌色」という名称を使わなくなったとあります。ただ新しい色名の浸透度は今ひとつで、「肌色」と呼んでいる小さい子供たちもまだまだ多いとのこと。「医学の常識は保険の非常識」ならぬ、「昭和の常識は令和の非常識」を感じた次第ですが、我々の領域でも似たような話があります。

ノルウェー疥癬は最近では角化型疥癬と呼ぶことの方が増えていますが、その理由はノルウェーの人々に失礼ではないかとか、疫学的にノルウェーとは無関係だからだとか聞いたことがあります。では何故、ノルウェー疥癬という用語があるかという点、日本皮膚科学会のホームページの疥癬の解説にもありますが、ノルウェーの医師であるダニエルセンが1848年に角化の強い重症疥癬を最初に報告したことによります。人づてに聞いた話で真偽は不明ですが、ノルウェー疥癬という用語を用いることの是非をノルウェーの先生に聞いてみたところ少なくとも否定的な意見はなかったとの由。考えてみれば病名に地名を伴っているものはロッキー山紅斑熱、ライム病、家族性地中海熱などいくつか思い当たります。ただ、差別につながりかねないとの指摘はあって、新型コロナウイルス感染症をチャイナウイルスと連呼していた前大統領の記憶は新しいですが、ヒトの新興感染症の名称に地名や動物名は使えないというルールが数年前から確立されているそうです。

ソーシャルディスタンスが叫ばれていますが、実はこの用語も差別用語でありフィジカルディスタンスと呼ぶべきだとのメールが勤務する病院の総務部から12月初めに届きました。ソーシャルディスタンスは社会的距離と訳されますが、体ではなく心の距離を意味し、人とのつながりの減少により社会的孤立を生じさせる恐れがあることから、WHOが推奨する身体的・物理的距離を意味するフィジカルディスタンスに言い換えるようにとの通知です。色々調べてみるとソーシャルディスタンスとソーシャルディスタンスでまた意味が違ふとの記載があり、わけが分からなくなってきました。思いを言葉で伝えることは誤解を招きかねず、さりとてじつと腫で訴えようものならばセクハラと受け取られかねず、とかくこの世は住みにくい、と感じる毎日です。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第63巻 第2号 2月号 2021年2月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
--	---

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。